vibeKAT 取扱説明書

Alternate Mode Japan

(2018 年6月 28 日版)

目次

1. 電源
2. フットスイッチ入力
3. フットコントロール入力
4. MIDI 入出力
5. 音源の変更
6. 内部音源、外部音源間の切り替え
7. 演奏するオクターヴの変更
8. 入力に対するセンシティビティの調整(*ppp*-*fff*)
9. 入力に対するスレッショルドの調整(*ppp*)
10. 出力するヴェロシティの調整
11. 出力する音の長さ・大きさの調整
12. 全ての設定の出力、消去
13. 反応性の悪いパッドがある場合
14. vibeKAT が PC/Mac で認識されない場合
15. vibeKAT から音が出ない場合

1. 電源

a. vibeKAT を使用するには、AC アダプタを本体背面”15Volts”に接続してください。
b. 電源スイッチは本体背面に備えられています。

2. フットスイッチ入力

a. vibeKAT には本体背面に 3 つのフットスイッチ入力端子が備えられおり、それぞれ異なる機能が設定されています。
b. 1 つだけを使用することも、あるいは 3 つ全て使用することもできます。
   - FTSW1 “Sustain”：フットスイッチが押されている間、音が延ばされます。従来のヴァイブラフォンのペダルに相当します。
   - FTSW “Edit”：設定を編集するときに使われます。各種設定の編集について詳しくは次項をご参照ください。
   - FTSW2 “Sustain”：オクターヴ移動、音源変更、ピッチベンド等に使用されます。

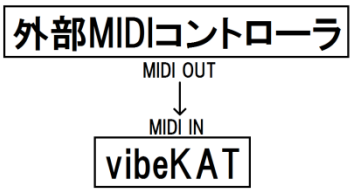
3. フットコントロール入力

a. vibeKAT には本体背面に 2 つのフットコントロール入力端子が備えられいます。
b. 音源によってそれぞれ異なる機能があらかじめ設定されています。(音量、移調、ヴィブラート等)

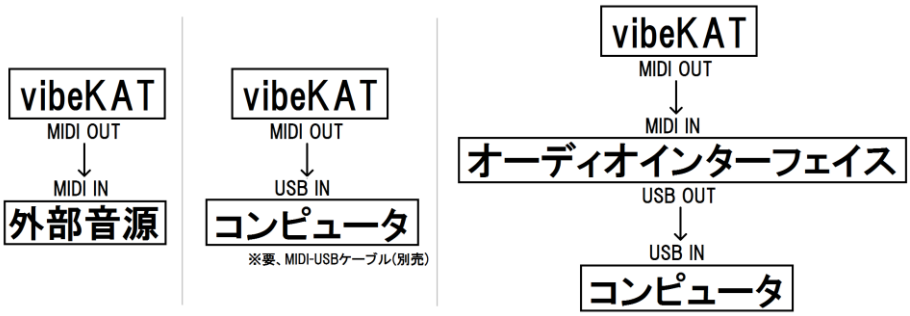
4. MIDI 入出力

a. vibeKAT には本体背面に MIDI 入出力端子が備えられています。

- MIDI IN：別売の MIDI ケーブルをご使用いただくことで、他の MIDI コントローラを使用し vibeKAT 内の音を演奏していただけます。

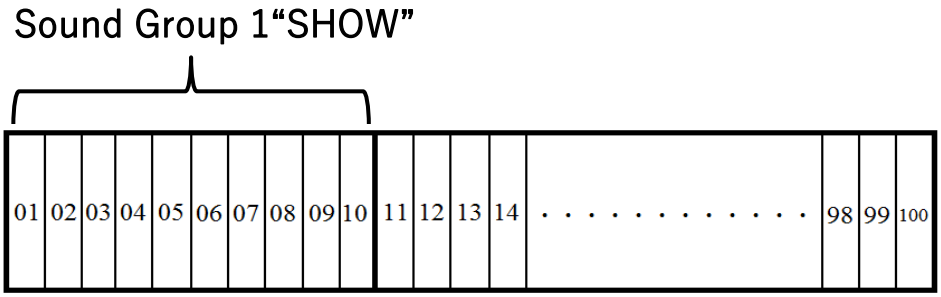


- MIDI OUT：別売の MIDI ケーブルをご使用いただくことで、外部音源を演奏していただけます。または、コンピュータに接続していただくことで、お手持ちの DAW 上に MIDI 信号を送信することもできます。

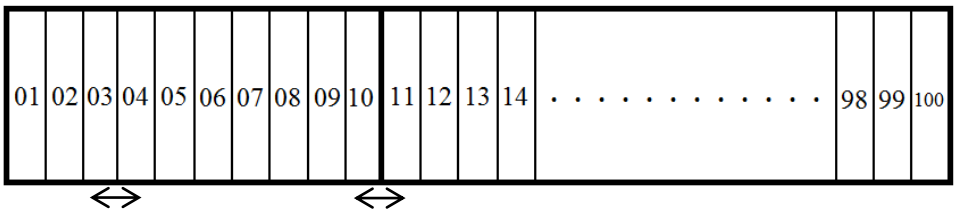


5. 音源の変更

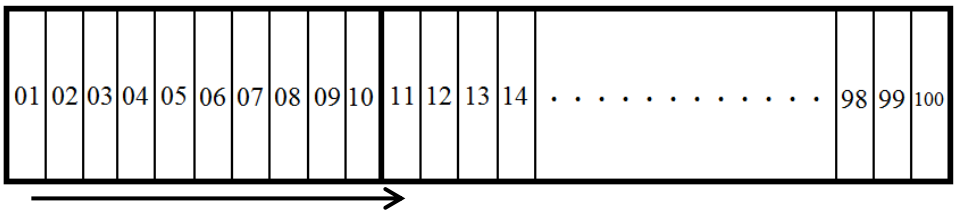
a. vibeKAT には 99 の音源が備えられており、10 ずつ「サウンドグループ」に格納されています。



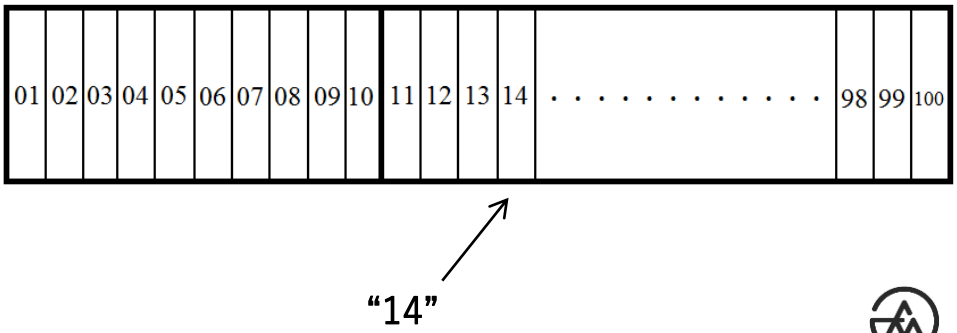
b. 音を変更するには、FORWARD と書かれた鍵盤を二度タップしてください。FORWARD で次の音源、BACKWARDS で一つ前の音源に変更されます。



c. FTSW “Edit” フットスイッチを押している間に最も高い C(ド)をタップしていただくことで、次のサウンドグループへ変更されます。フットスイッチを離すことで、そのサウンドグループが選択されます。



d. FTSW “Edit” フットスイッチを押している間に二番目に高い C(ド)(SETUP と書かれています)をタップしていただくことで、お気に入りの音を直接呼び出していただけます。黒鍵を利用してお好みの音源の番号をご入力ください。FTSW “Edit” フットスイッチを離すことでその音源に設定されます。



6. 内部音源、外部音源間の切り替え

a. 内部音源を演奏される場合は、USER KITS を選択し、音源 01-99 を使用してください。
b. 外部音源を演奏される場合は、USER KITS を選択し、音源 100 を使用してください。
c. 外部音源(GM) を演奏される場合は、FACTORY KITS を選択してください。
d. USER KITS、FACTORY KITS 間の変更は、以下の手順によって行われます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチを押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高い G#(ソ#)(FACTORY/USER KIT SELECTION と書かれています)をタップしてください。
   3. もう一度同じ鍵盤をタップすることで、USER KITS、FACTORY KITS 間の変更が行われます。
   4. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

7. 演奏するオクターヴの変更

a. OCTAVE SHIFT 機能を使用することで、演奏するオクターヴを一度に調整できます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチを押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高い E(ミ)(OCTAVE SHIFT と書かれています)をタップしてください。
   3. ＩＮＣＲＥＭＥＮＴ(C#)、DECREMENT(D#)の鍵盤を使用し、演奏するオクターヴを設定してください。
   4. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

8. 入力に対するセンシティビティの調整(*ppp*-*fff*)

b. GLOBAL TRAIN 機能を使用することで、全ての鍵盤のセンシティビティを一度に調整できます。

5. FTSW “Edit” フットスイッチを押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
6. 最も高い G(ソ)(GLOBAL TRAIN と書かれています)をタップしてください。
7. 画面に”Training Pads, Hit Any Pad SOFTLY”と表示されるので、お好きな鍵盤を***ppp***で一度タップしてください。
8. しばらくすると、画面に”Training Pads, Hit Any Pad HARD”と表示されるので、お好きな鍵盤を***fff***で一度タップしてください。
9. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

c. GROUP TRAIN 機能を使用することで、特定の鍵盤のセンシティビティを調整できます。

1. FTSW “Edit” フットスイッチを押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
2. 最も高い D#(レ#)(GROUP TRAIN と書かれています)をタップしてください。
3. 画面に”Training Pads, Hit Any Pad”と表示されるので、お好きな鍵盤を一度タップしてください。
4. 画面に”Training for Group (オクターヴ名), Hit C Softly”と表示されるので、FORWARD, BACKWARD の鍵盤を使用し、設定するオクターヴを選択してください。(最低：C-1、最高： C +2)
5. 選択したオクターヴの低い C(ド)を***ppp***で一度タップしてください。
6. しばらくすると、画面に”Training Pads, Hit C HARD”と表示されるので、選択したオクターヴの低い C(ド)を***fff***で一度タップしてください。
7. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

9. 入力に対するスレッショルドの調整(*ppp*)

a. THRESHOLD 機能を使用することで、全ての鍵盤のセンシティビティ(***ppp***)を一度に調整できます。(※この操作中は音を聴くことができません。)

1. FTSW “Edit” フットスイッチと FTSW2 “Sustain” フットスイッチを同時に押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
2. 最も高い C#(ド#)(THRESHOLD ADJUST と書かれています)をタップしてください。
3. 画面に”Threshold Adjust, F1+F2:initialize”と表示されます。
4. 鍵盤右端のファンクションキー、L1 と L2 を使用してセンシティビティを調整してください。
   - L1：***ppp***の演奏に対して反応がより敏感なります。
   - L2：***ppp***の演奏に対して反応がより鈍くなります。
   - L1・L2 同時：センシティビティがリセットされます。
5. 両フットスイッチを離してください。

b. ＴＨＲＥＳＨＯＬＤ機能を使用することで、特定の鍵盤のセンシティビティ(***ppp***)を調整できます。(※この操作中は音を聴くことができません。)

1. FTSW “Edit” フットスイッチを押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
2. 最も高い C#(ド#)(THRESHOLD ADJUST と書かれています)をタップしてください。
3. 画面に”Threshold Adjust To Select Pad: Hit It”と表示されるので、設定したい鍵盤を一度タップしてください。
4. ＩＮＣＲＥＭＥＮＴ(C#)、DECREMENT(D#)の鍵盤を使用し、スレッショルド値を設定してください。値が小さいほど***ppp***の演奏に対して反応がより敏感なります。
5. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

10. 出力するヴェロシティの調整

a. MINIMUM VELOCITY 機能を使用することで、***ppp***の演奏の対する出力値を調整できます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチ押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高いF(ファ)(MINIMUM VELOCITY と書かれています)をタップしてください。
   3. 画面に”Setup 01, Edit Controller1, Minimum Velocity”と表示されます。
   4. ＩＮＣＲＥＭＥＮＴ(C#)、DECREMENT(D#)の鍵盤を使用し、出力値を設定してください。(最小：0、最大・127)
   5. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

b. VELOCITY CURVE 機能を使用することで、入力された信号の強弱と出力される信号の強弱の相関関係を変更できます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチ押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高い A(ラ)(VELOCITY CURVE と書かれています)をタップしてください。
   3. 画面に”Setup 01, Edit Controller1, Velocity Curve”と表示されます。
   4. ＩＮＣＲＥＭＥＮＴ(C#)、DECREMENT(D#)の鍵盤を使用し、相関関係を設定してください。(計 11 種類用意されています。)
   5. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

11. 出力する音の長さ・大きさの調整

a. GATE TIME 機能を使用することで、FTSW1“Sustain”フットスイッチを使用していない場合に出力される音の長さを設定できます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチ押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高い D(レ)(GATE TIME と書かれています)をタップしてください。
   3. 画面に”Setup 01, Edit Controller1, Gate Time”と表示されます。
   4. ＩＮＣＲＥＭＥＮＴ(C#)、DECREMENT(D#)の鍵盤を使用し、音の長さを設定してください。
      - “Velocity”と表示される場合、その音源は、小さい音は長く、大きい音は短くなるよう設定されています。
   5. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

b. VOLUME 機能を使用することで、音量を調整することができます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチ押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高い B(シ)(VOLUME と書かれています)をタップしてください。
   3. 画面に”Setup 01, Edit Controller1, Volume”と表示されます。
   4. ＩＮＣＲＥＭＥＮＴ(C#)、DECREMENT(D#)の鍵盤を使用し、音量を設定してください。(最小：0、最大・127)
   5. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

12. 全ての設定の出力、消去

a. ALL MEMORY DUMP 機能を使用することで、全ての設定を MIDI 出力できます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチ押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. 最も高い A#(ラ#)(ALL MEMORY DUMP と書かれています)をタップしてください。
   3. 全ての設定が SYSEX 形式で MIDI に出力されます。
   4. FTSW “Edit” フットスイッチを離してください。

b. REINITIALIZATION 機能を使用することで、全ての設定を消去できます。
   1. FTSW “Edit” フットスイッチ押して、全ての手順が完了するまで離さないでください。
   2. FORWARD、BACKWARD の両鍵盤を押して離さないでください。
   3. 最も高い A#(ラ#)を押してください。
   4. 全ての設定が消去されます。

13. 反応性の悪いパッドがある場合

a. 起動時に手・マレットなどを置かないようにして再起動してください。起動時に毎回カリブレーション(はかりの 0 を調整する工程)を行います。

b. それでも反応性にムラがある場合、誤って何らかの設定に変更をしてしまった可能性があります。以下の手順で初期化をお試しください。

   1. FTSW"Edit"を接続、長押し。
   2. FORWARD/BACKWARD の両キーを長押し。
   3. 画面の指示に従い最高オクターヴの A#を長押し。

   上記の手順で初期化した後、再起動を行ってください。画面左上に F01 と表示されますので、以下の手順でユーザーキットに移って反応性をご確認ください。

   1. FTSW"Edit"を接続、長押し。
   2. FACTORY/USER を叩く。
   3. INCREMENT(+)/DECREMENT(-)を利用し、USER SETUP を選択。画面左上に U01 と表示されます。

14. vibeKAT が PC/Mac で認識されない場合

a. 以下の項目をご確認ください。

b. vibeKAT 本体側面の MIDI OUT を使用している。(側面からは常に MIDI 信号が送られます。正面の MIDI OUT はキットによって使用・不使用を設定することができます。)

c. vibeKAT→PC/Mac の順で起動している。

d. お使いの DAW/VST の MIDI I/O 設定を確認する。

e. vibeKAT のご使用時、ドライバ等のダウンロードは必要ありません。

14. vibeKAT から音が出ない場合

a. 以下の原因が考えられます。

b. 原因１：スピーカ、アンプ、ヘッドホン等が接続されていない。
→ vibeKAT 本体にスピーカは内蔵されておりません。上記の機器を LINE OUT または HEADPHONE ジャックに接続してください。

c. 原因２：ファクトリーキットに設定されている。(画面左上の番号が F から始まっている。)
→ 内臓音源を使用される場合は、以下の手順でユーザーキットに移ってください。
   1. FTSW"Edit"を接続、長押し。
   2. FACTORY/USER を叩く。
   3. INCREMENT(+)/DECREMENT(-)を利用し、USER SETUP を選択。画面左上に U01 と表示されます。